

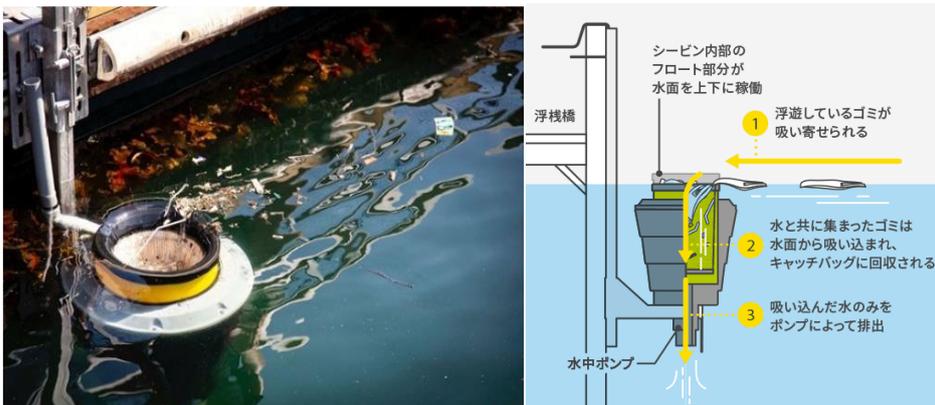
Seabin から始まる海のお掃除大作戦

北星学園経済学部藤井ゼミでの活動を報告いたします。

私たちは、北星学園大学経済学部経済学科で環境経済学ゼミ（担当：藤井康平専任講師）に所属する3年生です。現在、「海洋ごみの削減と有効活用」をテーマとし、北海道初苦小牧市の港湾で海のごみ箱『Seabin(シービン)』を設置し、回収したごみを有効活用しようと計画しております。

Seabin とは

Seabin とは海洋プラスチックごみ回収装置のことです。日本のプラスチック生産量は年間で約 1000 万トン。そのうち 900 万トンが捨てられています。そのほぼ 100% が熱回収などのリサイクルまたは埋め立て、焼却処分されています。この現状に効果的なのがこの Seabin です。Seabin は 24 時間海洋ごみを回収可能であり、マイクロプラスチックの他に海上に浮かぶ木材や表層油の回収が実現できます。この Seabin は日本にまだ 18 件しか設置されていなく、北海道は該当していません。



[Seabin \(シービン\) -海洋プラスチックゴミ回収装置 | 平泉洋行](#)

なぜ苦小牧市なのか

苦小牧市には国際拠点港湾である海の玄関「苦小牧港」があります。苦小牧港は入り組んだ構造になっているため、ごみが溜まりやすい状況です。苦小牧港は旅客フェリーの発着点となっているため、多くの観光客が訪れますが、港に面した公園や広場には、不法投棄やポイ捨ても多く見られます。



漁港に流れ着いた海洋ごみ

また、苫小牧港周辺にはリサイクル施設や処理施設が多くあり、リサイクル事業が活発に行われています。苫小牧市がまとめた 2019 年度のごみのリサイクル率は 31.2%で、人口 10 万人以上の道内主要都市 9 市のうちでトップでした。さらに苫小牧市では、ゼロカーボンの実現やゼロごみの町づくり、エコストアの取り組みを行うなど、地方環境行政において先導的な役割を果たしています。

以上より、苫小牧市はリサイクル事業が活発である一方で、苫小牧港周辺は不法投棄やポイ捨てなどによって、海洋汚染と景観悪化が進行しています。多くの人がこの現状を認識しておらず、海洋汚染問題そのものへの理解度も低い状況です。海洋汚染は日常生活で生じる廃棄物が原因で引き起こされることが多く、社会生活と密接につながっていることを認識してもらう必要があります。また、海洋ごみを有効活用し、マイナスの価値をプラスの価値に変換することができれば、循環型社会の実現に大きく近づくと考えます。リサイクル事業が活発な苫小牧市で取り組む意義はここにあります。

そこで苫小牧市にある勇払マリーナ様に協賛をいただきマリーナ内を研究フィールドとして使用させていただくことになりました。

勇払マリーナ様ではマリーナ内の掃除を行っていますが、やはりごみはマリーナ内に流れ込んでくるため seabin が効果的に働いてくれるのではないかと考えています。



勇払マリーナ様のマリーナ内

藤井ゼミよりお知らせ

現在 seabin から始まる海のお掃除大作戦はクラウドファンディングとインスタグラムを開始いたしました。

是非ご協力をお願い致します



<https://camp-fire.jp/projects/view/607427>